

訪日外国人消費動向調査 【トピックス分析】

欧米豪観光客の地方訪問状況に関する詳細分析

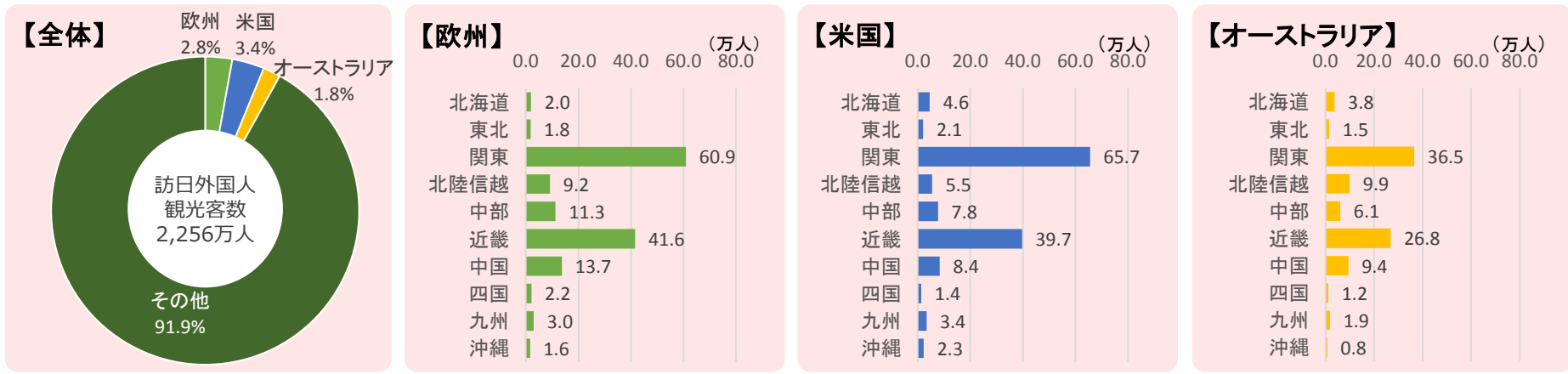
本トピックス分析は、訪日外国人消費動向調査のデータを利用し、我が国での訪日外国人の動向についてテーマを設け、詳細な分析を行ったものである。

今回は、2018年1月より新たに開始された「B1地域調査」の結果を用いて、2018年(暦年)において地方を訪問した欧米豪の訪日外国人観光客についての特徴をまとめた。加えて、欧米豪の訪日外国人観光客が満足した購入商品や飲食の回答内容についても紹介する。

観光庁 観光戦略課 観光統計調査室

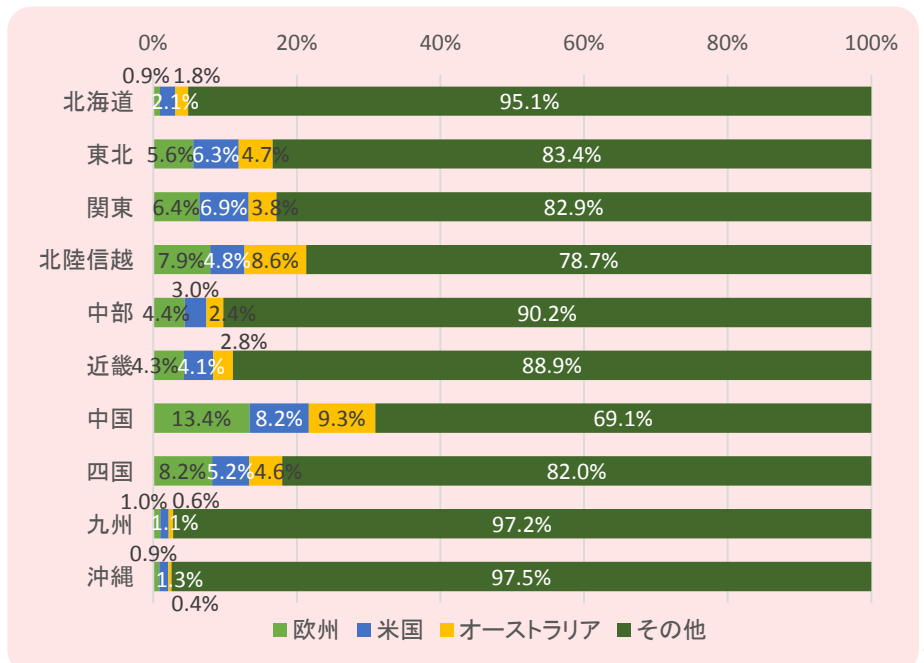
【訪問地】欧米豪観光客は関東・近畿地方を多く訪問

【図表1】訪問地別 訪日外国人観光客数(2018年暦年)



- 2018年暦年(1月～12月)における観光・レジャー目的の訪日外国人(以下、訪日外国人観光客)は2,256万人と推計される。このうち欧州が2.8%、米国が3.4%、オーストラリアが1.8%であり、欧米豪は全体の8.1%を占める【図表1】。
- 訪問地別(注1)にみると、欧米豪いずれも関東や近畿地方への訪問者数が多い。冬のスキー客が多いオーストラリアでは関東や近畿地方に加えて北陸信越地方への訪問者数も多い。一方、東北や四国、九州、沖縄地方への訪問者数は少なく、欧州、米国、オーストラリアを合わせて5～8万人程度である【図表1】。
- 訪問地別に、訪日外国人観光客数に占める欧米豪の割合をみると、中国地方で30.9%と高く、次いで北陸信越地方(21.3%)、四国地方(18.0%)、関東地方(17.1%)、東北地方(16.6%)の順となっている【図表2】。

【図表2】訪問地別 訪日外国人観光客数構成比(2018年暦年)

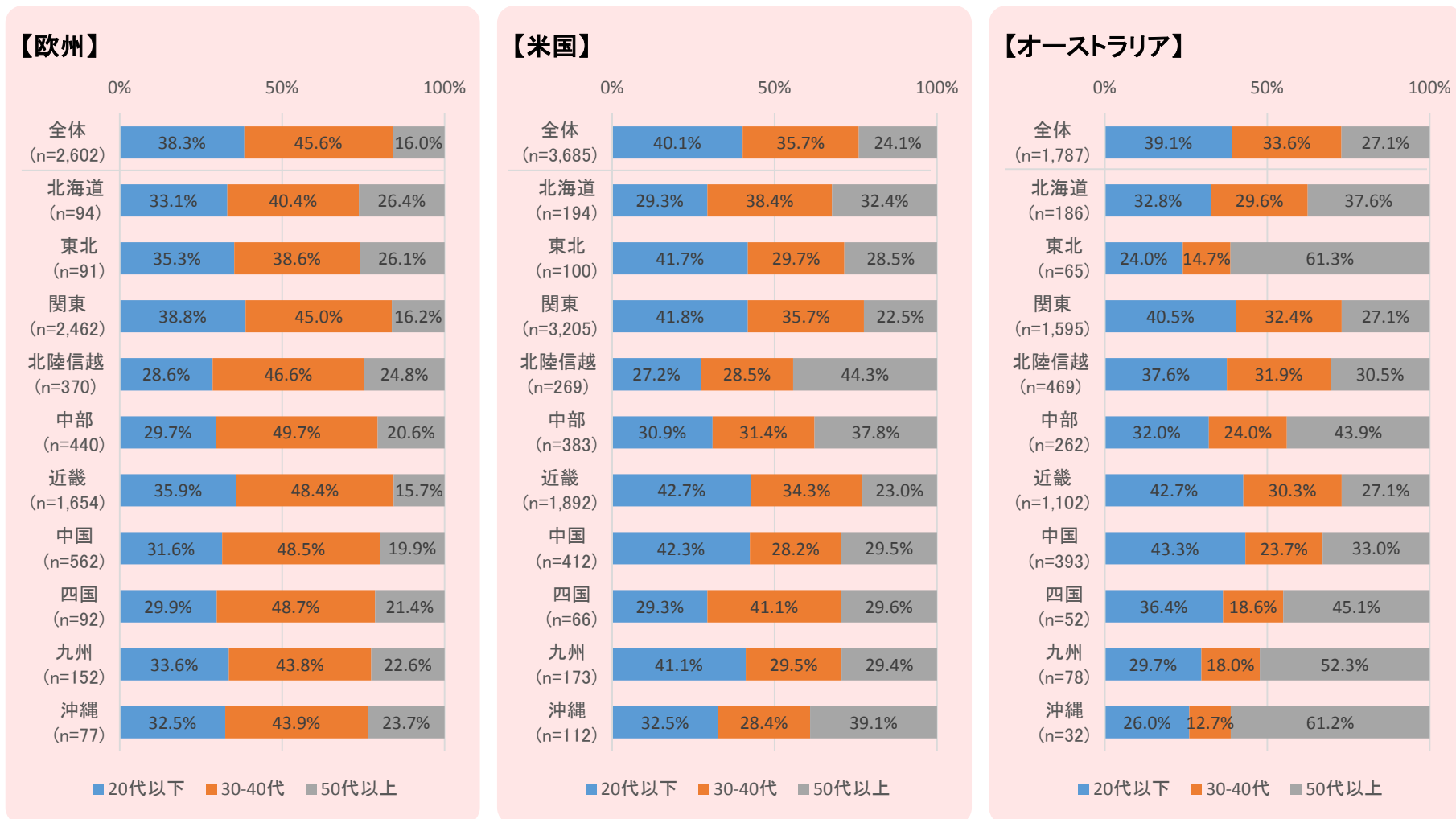


(注1) 訪問地は運輸局を単位としている。訪問地に入出国空港は含まれない。
(注2) 「欧州」は英国・フランス・ドイツ・イタリア・スペインを指す。
(注3) 各数値は観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象とし、調査期、国籍・地域、出国空港別のJNTO訪日外客数(クルーズ客を除く)によるウェイトバック処理を施して算出している。

【年代】米国やオーストラリアは訪問地によって年代構成に違いも

- 訪問地別に訪問者の年代構成を示す。欧州は全体的に「30-40代」が多いものの、訪問地による大きな差は見られない。米国は東北、関東、近畿、中国、九州地方で「20代以下」、北陸信越地方で「50代以上」が多い。オーストラリアは東北や沖縄地方において「50代以上」が目立つ一方、関東や近畿、中国地方では「20代以下」が多い【図表3】。

【図表3】訪問地別 訪日外国人観光客の年代構成(2018年暦年)

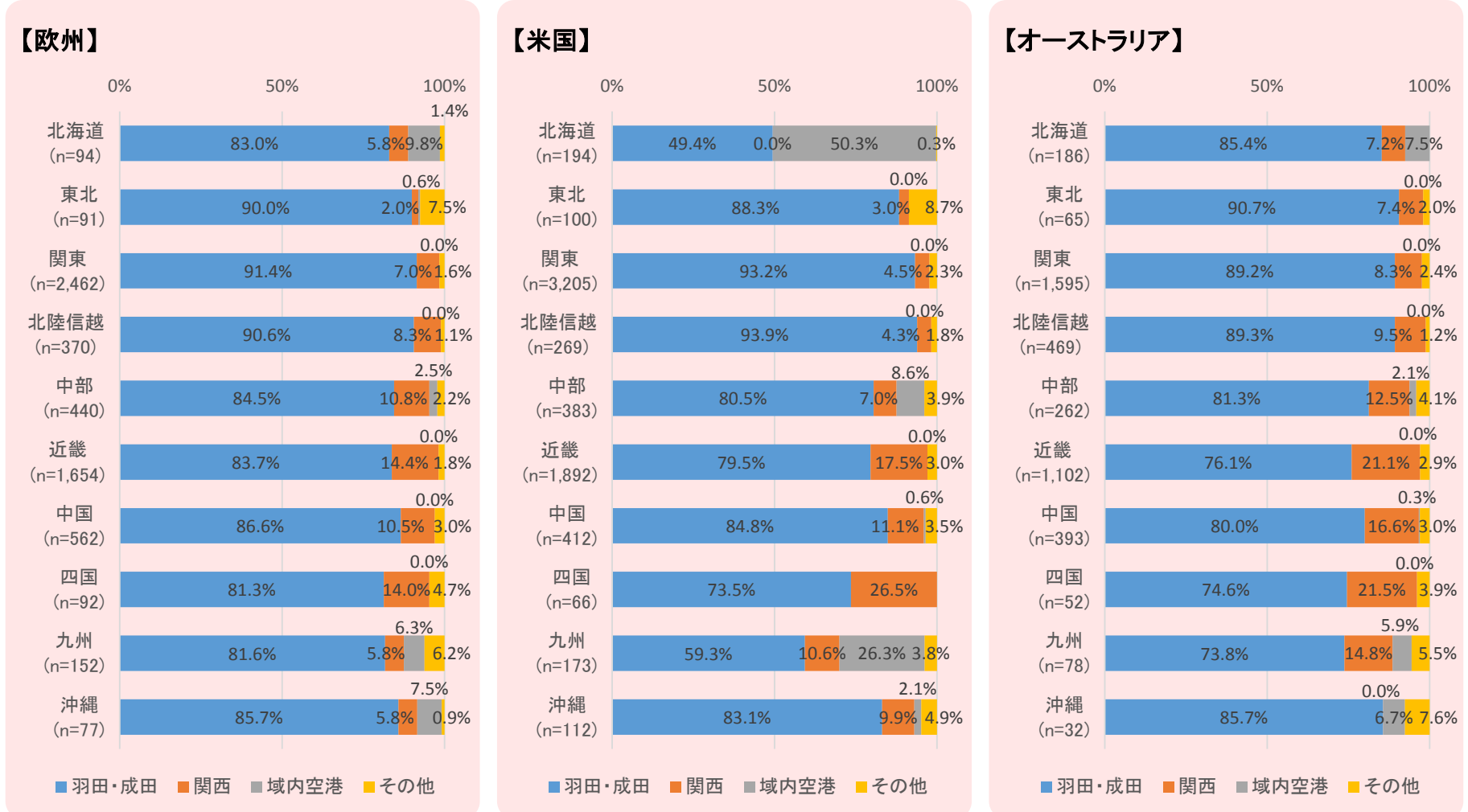


(注1) 訪問地は運輸局を単位としている。訪問地に出入国空港は含まれない。(注2)「欧州」は英国・フランス・ドイツ・イタリア・スペインを指す。
 (注3) 各数値は観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象とし、調査期、国籍・地域、出国空港別のJNTO訪日外客数(クルーズ客を除く)によるウェイトバック処理を施して算出している。

【入国空港】羽田・成田空港からの入国が多くを占める

- 訪問地別に、欧米豪の訪日外国人観光客の入国空港を示す。欧州は全ての地域において羽田・成田空港の比率が8割を超える。米国は北海道で域内空港の利用率が半数以上と高い。オーストラリアは近畿、四国地方の訪問者の関西空港利用率が2割程度を占める【図表4】。

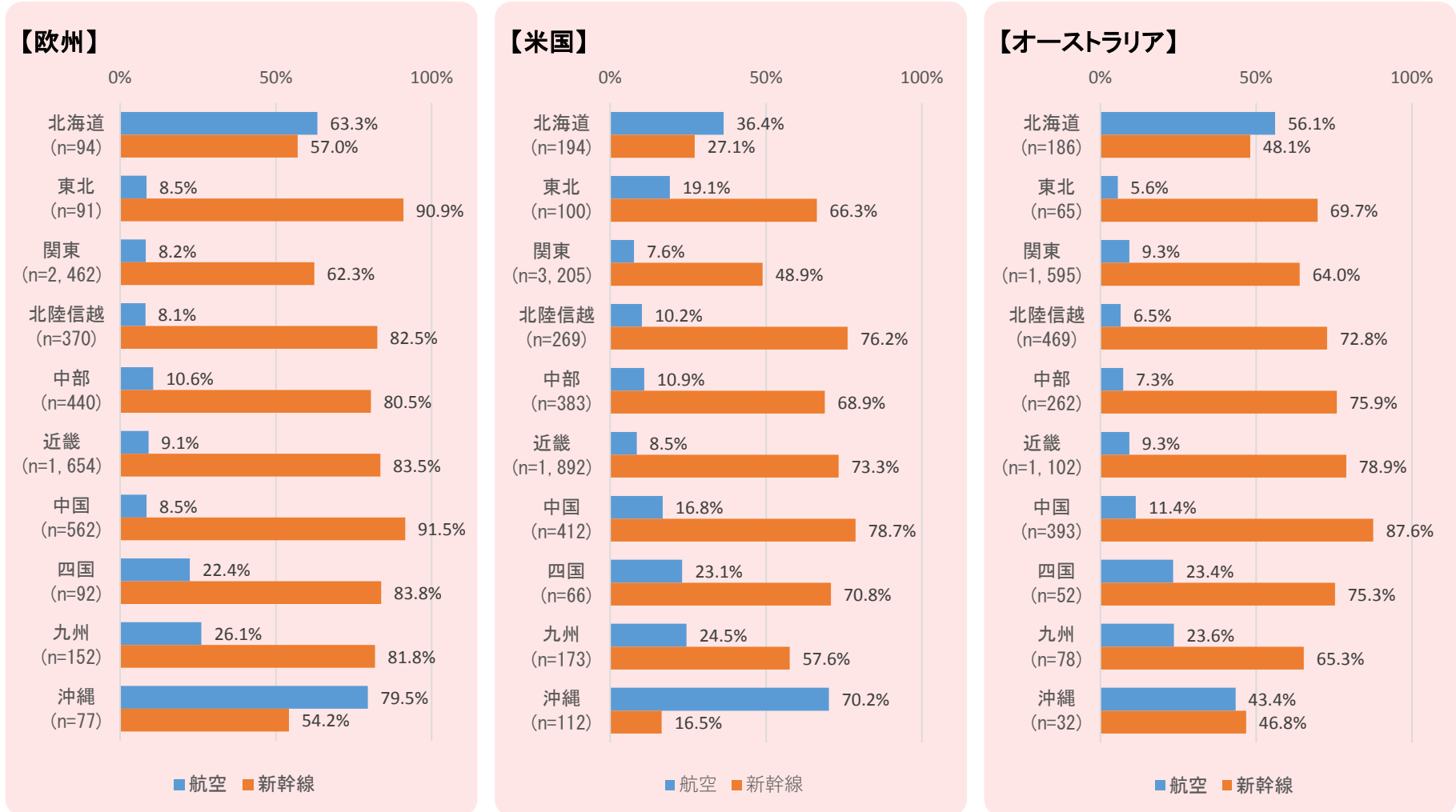
【図表4】訪問地別 訪日外国人観光客の入国空港(2018年暦年)



(注1) 訪問地は運輸局を単位としている。訪問地に出入国空港は含まれない。(注2)「欧州」は英国・フランス・ドイツ・イタリア・スペインを指す。(注3) 各数値は観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象とし、調査期、国籍・地域、出国空港別のJNTO訪日外客数(クルーズ客を除く)によるウェイトバック処理を施して算出している。

- 長距離交通手段は、北海道と沖縄地方訪問者では航空、東北や北陸信越、中部、近畿、中国地方訪問者では新幹線の利用率が高い傾向にある。四国・九州地方訪問者も新幹線の利用率は高いものの、航空の利用率も2～3割と低くない【図表5】。

【図表5】訪問地別 訪日外国人観光客の長距離交通手段(2018年暦年)

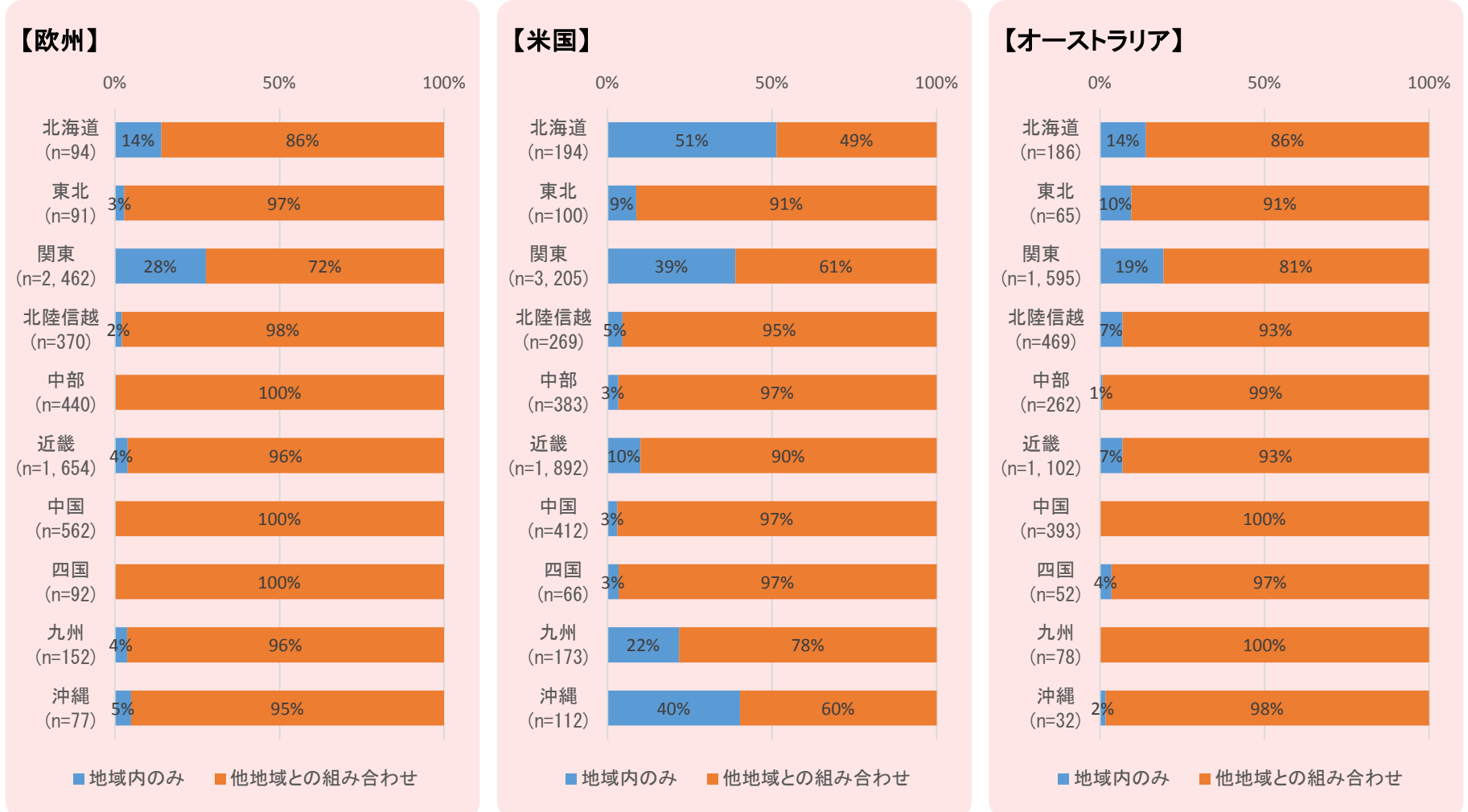


(注1) 訪問地は運輸局を単位としている。訪問地に出入国空港は含まれない。(注2)「欧州」は英国・フランス・ドイツ・イタリア・スペインを指す。
 (注3) 各数値は観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象とし、調査期、国籍・地域、出国空港別のJNTO訪日外客数(クルーズ客を除く)によるウェイトバック処理を施して算出している。

【訪問パターン】多くが他地域と組み合わせて訪問

- 各地方訪問者の訪問パターンを示す。欧州では北海道と関東地方を除くと、いずれの訪問地でもほとんどが他地域との組み合わせで訪問している。米国では北海道や関東地方に加え、九州や沖縄地方でも地域内のみの訪問者が見られる。オーストラリアは他地域との組み合わせでの訪問が多いものの、北海道や東北、関東地方では1~2割程度が地域内のみの訪問者である【図表6】。

【図表6】訪問地別 訪日外国人観光客の訪問パターン(2018年暦年)

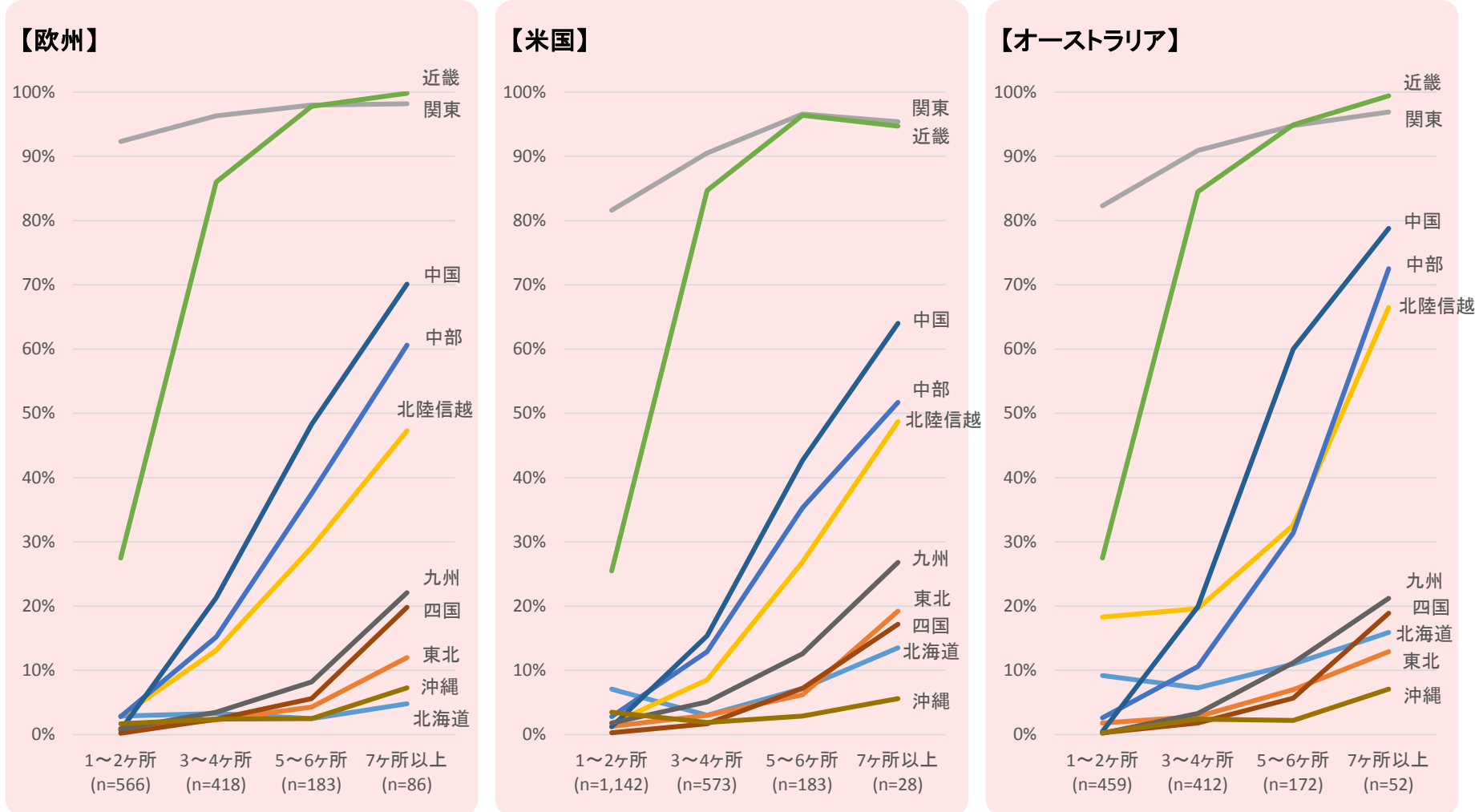


(注1) 訪問地は運輸局を単位としている。訪問地に出入国空港は含まれない。(注2)「欧州」は英国・フランス・ドイツ・イタリア・スペインを指す。
 (注3) 各数値は観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象とし、調査期、国籍・地域、出国空港別のJNTO訪日外客数(クルーズ客を除く)によるウェイトバック処理を施して算出している。

【訪問都道府県数】東北・四国・九州は7ヶ所以上の周遊客が訪問

- 日本全体の訪問都道府県数別に客層を分け、各訪問地の訪問率を示す。欧米豪ともに関東地方への訪問率が高く、3～4ヶ所以上の訪問者では9割を超える。近畿地方は1～2ヶ所訪問者で2～3割程度だが、3～4ヶ所以上の訪問者で8割超が訪問している。一方、北陸信越、中部、中国地方の訪問率は3～4ヶ所訪問者から、東北、四国、九州地方は7ヶ所以上から上昇する【図表7】。

【図表7】訪問都道府県数別 訪日外国人観光客の訪問率(2018年暦年)



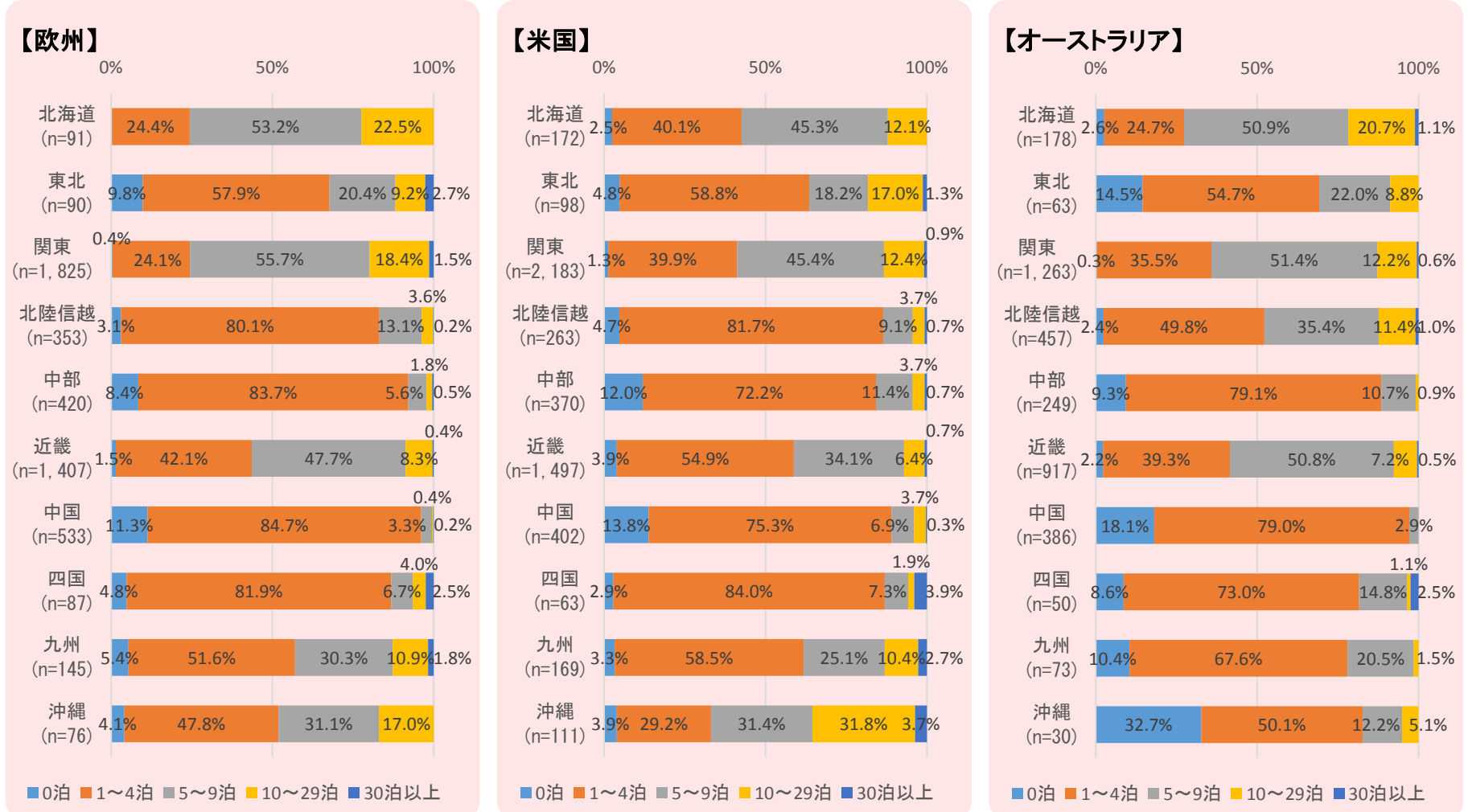
(注1) 訪問地は運輸局を単位としている。訪問地と訪問都道府県数に出入国空港の所在地は含まれていない。(注2)「欧州」は英国・フランス・ドイツ・イタリア・スペインを指す。

(注3) 各数値は観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象とし、調査期、国籍・地域、出国空港別のJNTO訪日外客数(クルーズ客を除く)によるウェイトバック処理を施して算出している。

【泊数】北海道や関東、近畿地方での泊数が長い

- 北海道や関東、近畿地方では5泊以上の訪問者が多く泊数が長い。欧州やオーストラリアの北海道訪問者は10泊以上が2割以上を占めている。一方、中部や中国、四国地方では4泊以下の短期滞在者が多く8割以上を占めている。北陸信越地方では、欧州と米国で4泊以下が8割以上を占める一方、オーストラリアでは5泊以上が約半数を占める【図表8】。

【図表8】訪問地別 訪日外国人観光客の泊数(2018年暦年)

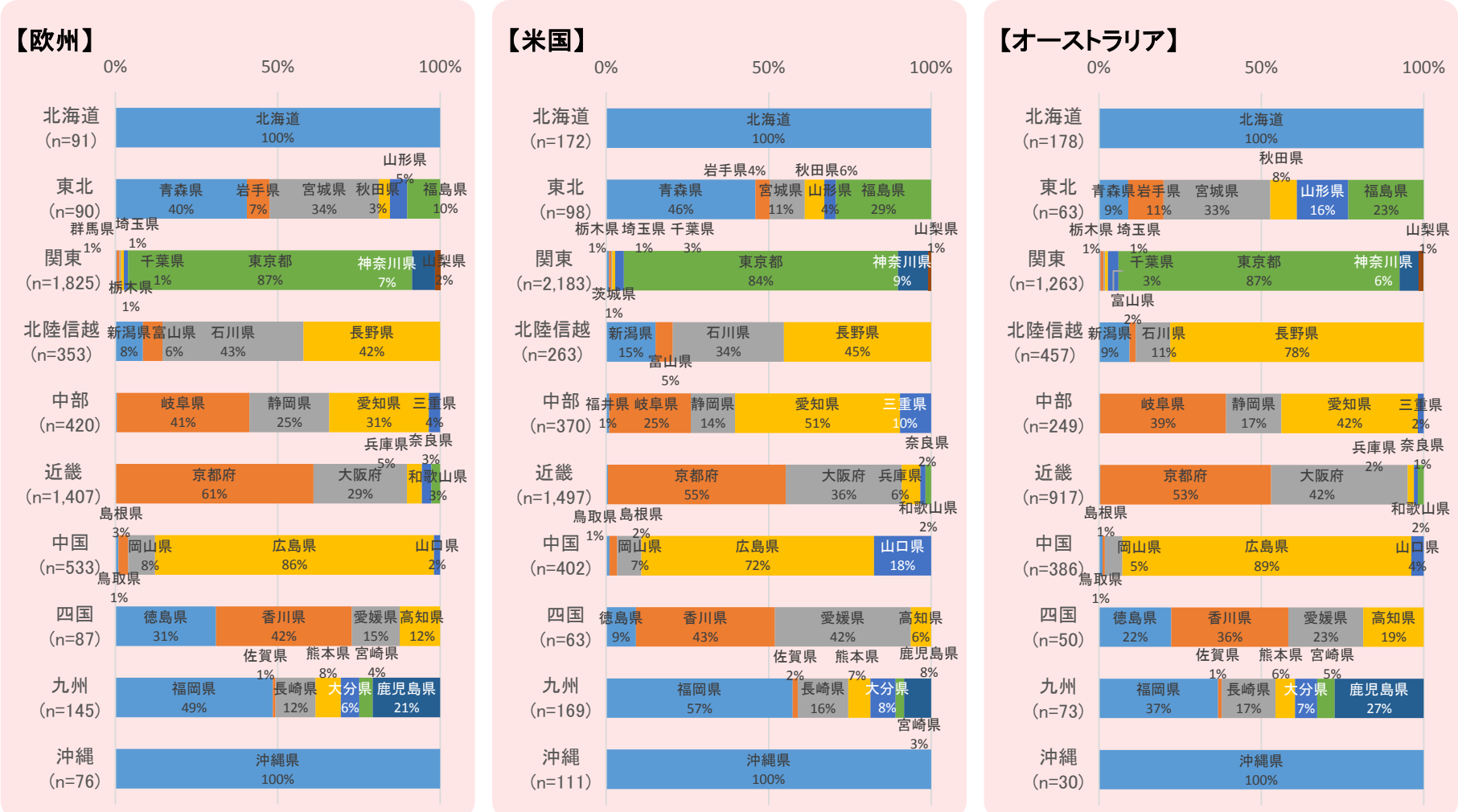


(注1) 訪問地は運輸局を単位としている。訪問地に出入国空港は含まれない。(注2)「欧州」は英国・フランス・ドイツ・イタリア・スペインを指す。
 (注3) 各数値は観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象とし、調査期、国籍・地域、出国空港別のJNTO訪日外客数(クルーズ客を除く)によるウェイトバック処理を施して算出している。

【延べ泊数】近畿地方では大阪府より京都府の延べ泊数が多い

- 各訪問地の都道府県別延べ泊数の構成比を示す。東北地方においては、欧州や米国で青森県の比率が高い。北陸信越地方においては、オーストラリアで長野県の比率が特に高い。近畿地方においては、欧米豪いずれにおいても大阪府より京都府の比率が高い。四国地方では香川県が約4割を占めるほか、欧州で徳島県、米国で愛媛県の比率が高い【図表9】。

【図表9】訪問地別 訪日外国人観光客の都道府県別延べ泊数構成比(2018年暦年)

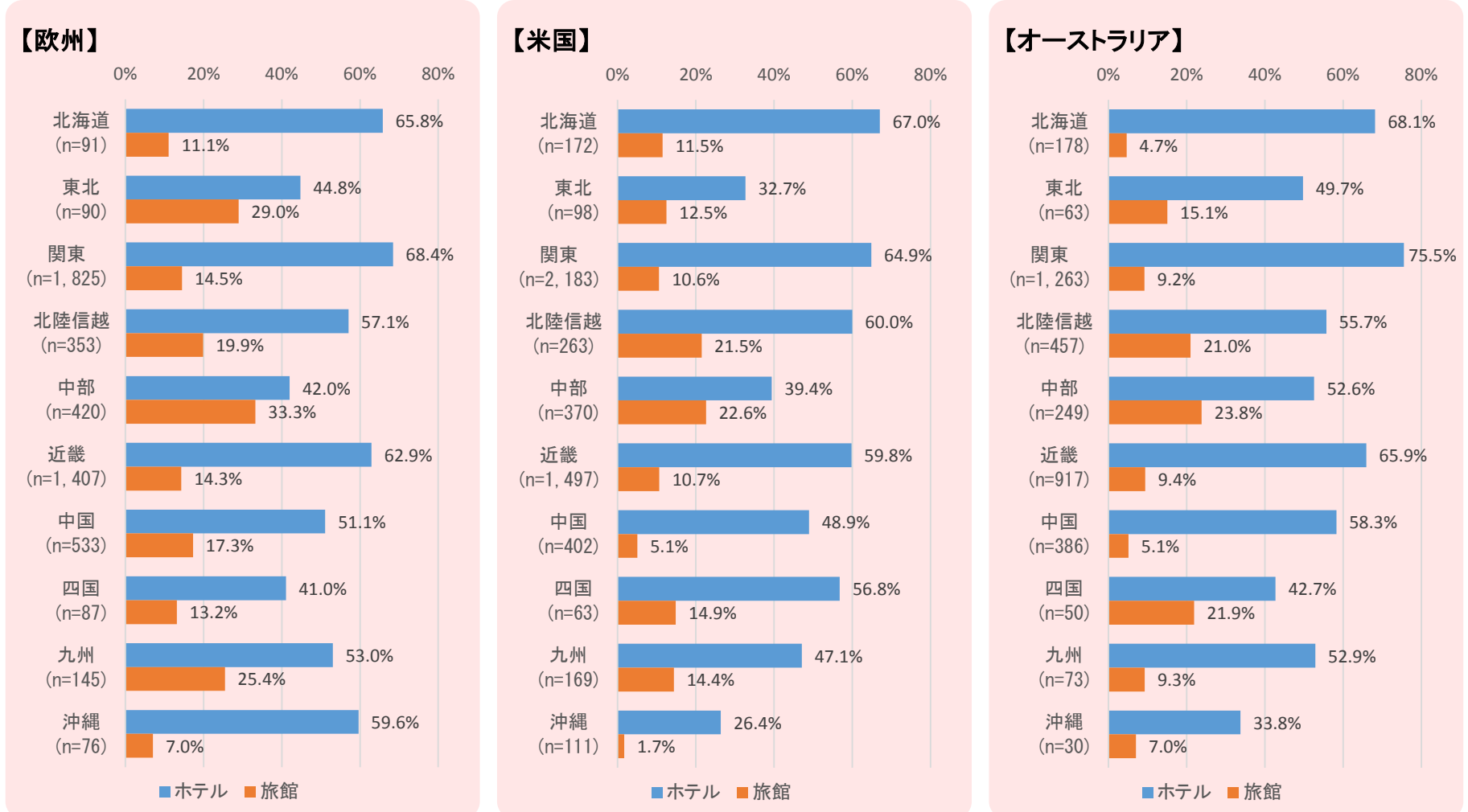


(注1) 訪問地は運輸局を単位としている。訪問地に出入国空港は含まれない。(注2)「欧州」は英国・フランス・ドイツ・イタリア・スペインを指す。(注3) 各数値は観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象とし、調査期、国籍・地域、出国空港別のJNTO訪日外客数(クルーズ客を除く)によるウェイトバック処理を施して算出している。

【宿泊施設①】北海道・関東・近畿でホテル利用率が高い

- 各訪問地でのホテル利用率は、北海道や関東、近畿地方で高い傾向にある一方、東北、中部地方では低い。このほか、欧州やオーストラリアの四国地方訪問者、米国やオーストラリアの沖縄地方訪問者のホテル利用率も低い。旅館利用率は沖縄地方で低い一方、欧州では東北や中部地方で3割程度と高い【図表10】。

【図表10】訪問地別 訪日外国人観光客の宿泊施設利用率①(2018年暦年)

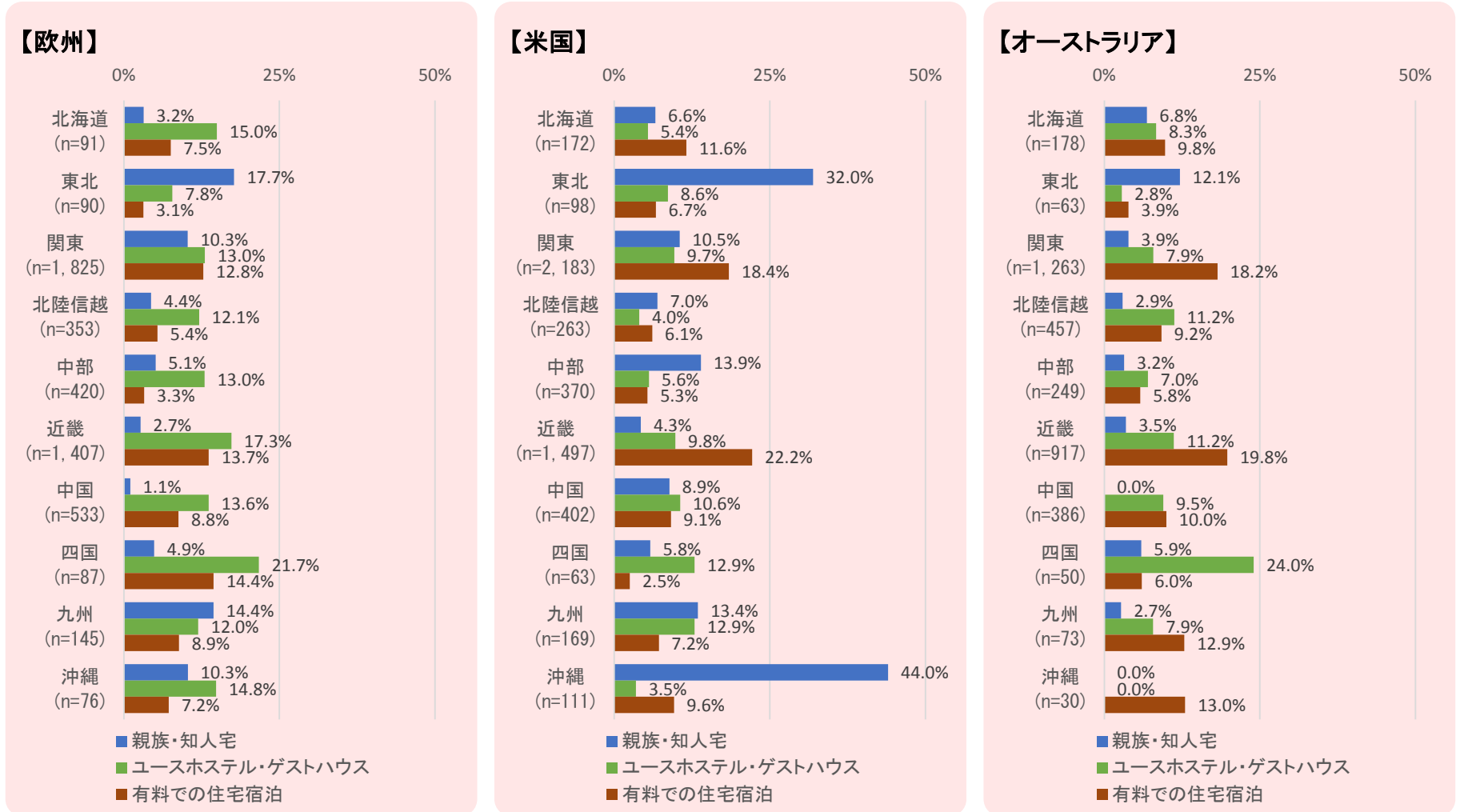


(注1) 訪問地は運輸局を単位としている。訪問地に出入国空港は含まれない。(注2)「欧州」は英国・フランス・ドイツ・イタリア・スペインを指す。(注3) 各数値は観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象とし、調査期、国籍・地域、出国空港別のJNTO訪日外客数(クルーズ客を除く)によるウェイトバック処理を施して算出している。

【宿泊施設②】有料での住宅宿泊は関東・近畿での利用率が高い

- ホテル・旅館以外の宿泊施設利用率は、欧州や米国の東北地方訪問者、米国の沖縄地方訪問者で親族・知人宅の利用率が高い。ユースホステル・ゲストハウスは欧州の利用率が1～2割程度と高い傾向にある。有料での住宅宿泊は関東や近畿地方など都市部での利用率が高い【図表11】。

【図表11】訪問地別 訪日外国人観光客の宿泊施設利用率②(2018年暦年)

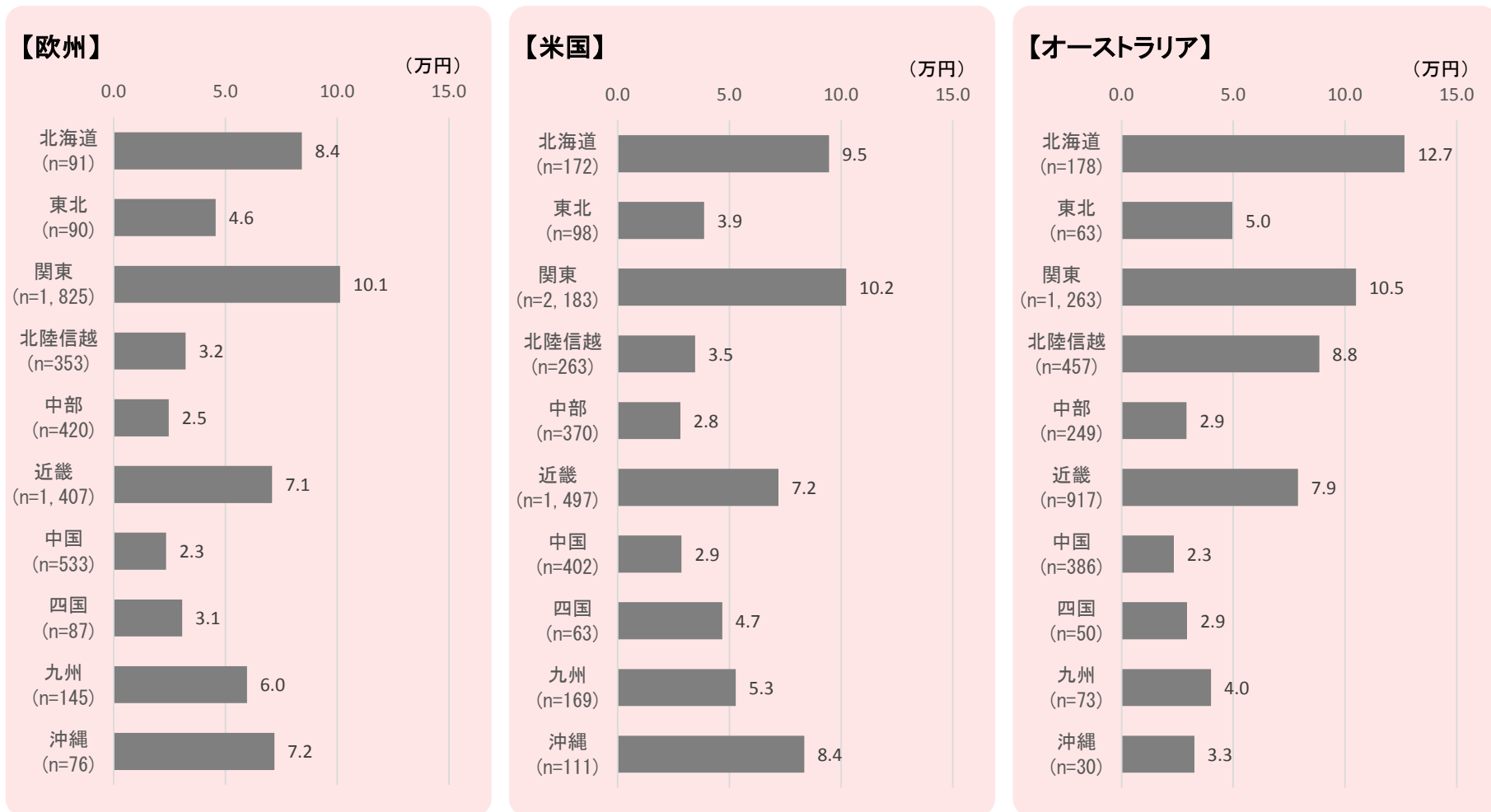


(注1) 訪問地は運輸局を単位としている。訪問地に出入国空港は含まれない。(注2)「欧州」は英国・フランス・ドイツ・イタリア・スペインを指す。
 (注3) 各数値は観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象とし、調査期、国籍・地域、出国空港別のJNTO訪日外客数(クルーズ客を除く)によるウェイトバック処理を施して算出している。

【旅行中支出】北海道・関東・近畿で高く中部・中国地方で低い

- 旅行中支出は北海道や関東、近畿地方で高い。米国は沖縄地方での旅行中支出も8.4万円と高い。冬のスキー客が多いオーストラリアは北海道で12.7万円、北陸信越地方で8.8万円程度と高い。一方、中部や中国地方の旅行中支出は2～3万円程度と低い傾向にある【図表12】。

【図表12】訪問地別 訪日外国人観光客の旅行中支出(2018年暦年)

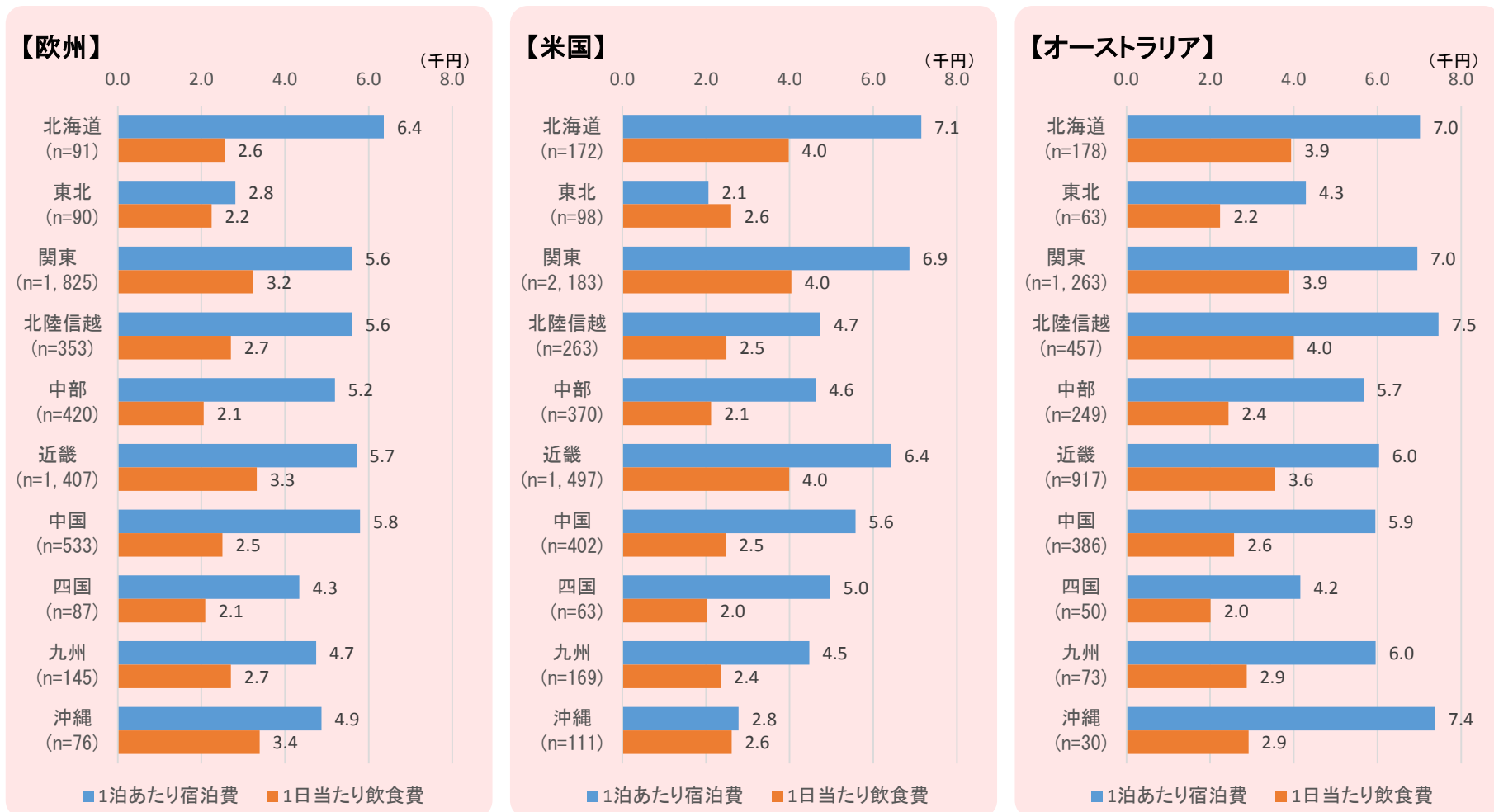


(注1) 訪問地は運輸局を単位としている。訪問地に入出国空港は含まれない。(注2)「欧州」は英国・フランス・ドイツ・イタリア・スペインを指す。
 (注3) 各数値は観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象とし、調査期、国籍・地域、出国空港別のJNTO訪日外客数(クルーズ客を除く)によるウェイトバック処理を施して算出している。
 (注4) 旅行中支出にはパッケージツアー参加費に含まれる日本国内支出や日本の航空会社及び船舶会社に支払われる国際旅客運賃を含まない。

【宿泊費・飲食費】北海道・関東・近畿で1泊あたり宿泊費が高い

- 訪問地での1泊あたり宿泊費と1日あたり飲食費を示す。1泊あたり宿泊費は欧米豪いずれも、北海道、関東、近畿地方で高い。一方、欧米豪いずれも東北地方で低いほか、米国では沖縄、オーストラリアでは四国地方でも低い。1日あたり飲食費は関東や近畿地方で高い傾向にある【図表13】。

【図表13】訪問地別 訪日外国人観光客の1泊あたり宿泊費と1日あたり飲食費(2018年暦年)

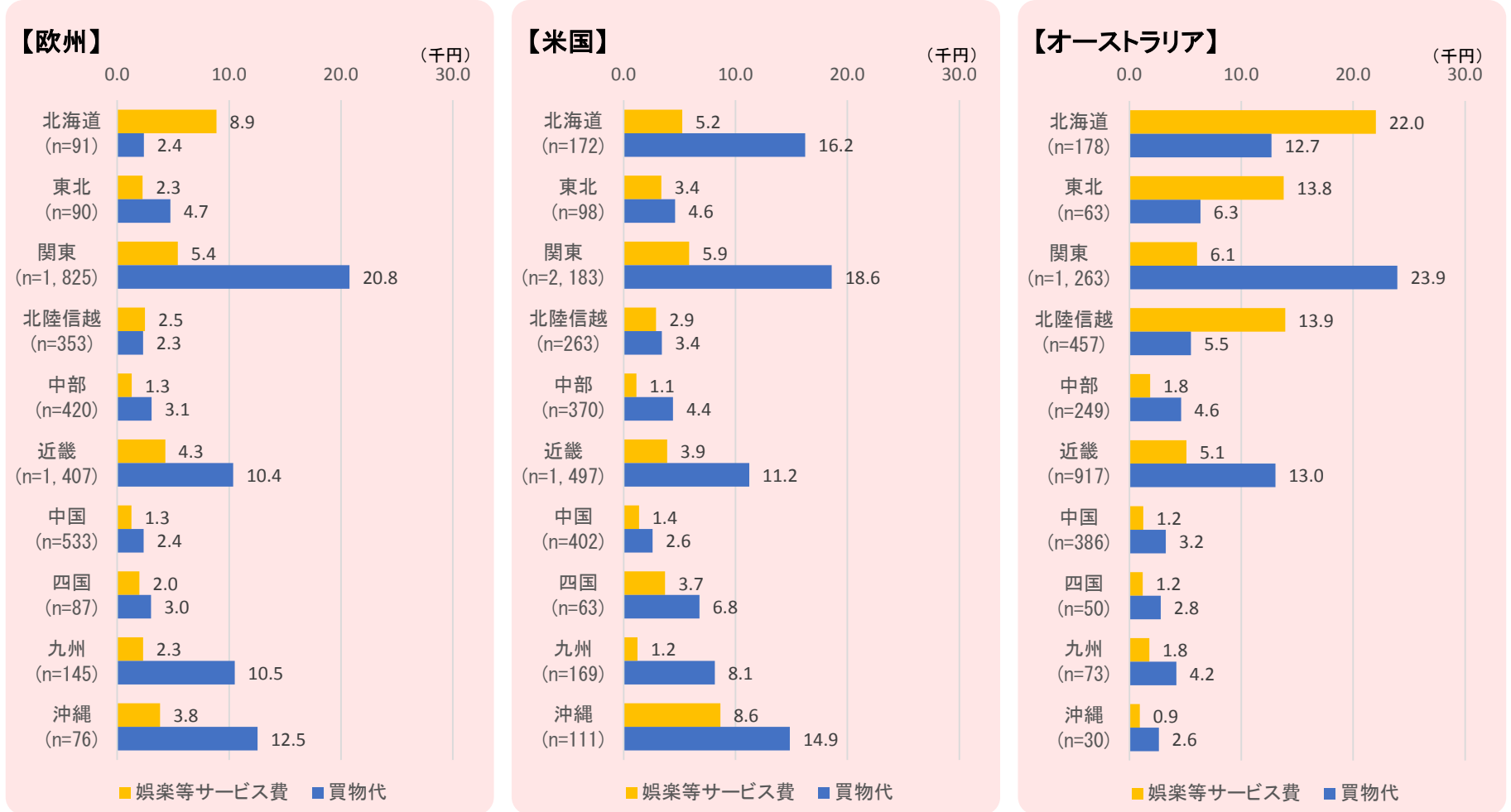


(注1) 訪問地は運輸局を単位としている。訪問地に入出国空港は含まれない。(注2)「欧州」は英国・フランス・ドイツ・イタリア・スペインを指す。
 (注3) 各数値は観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象とし、調査期、国籍・地域、出国空港別のJNTO訪日外客数(クルーズ客を除く)によるウェイトバック処理を施して算出している。
 (注4) 宿泊費、飲食費にはパッケージツアー参加費に含まれる日本国内支出を含まない。

【娯楽等サービス・買物代】買物代は関東と近畿で高い

- 訪問地での娯楽等サービス費、買物代を示す。欧州や米国の娯楽等サービス費は北海道や関東地方で高いほか、米国は沖縄地方でも高い。冬のスキー客が多いオーストラリアでは北海道や東北、北陸信越地方の娯楽等サービス費が高い。買物代は欧米豪いずれも関東、近畿地方で高い。米国やオーストラリアでは北海道訪問者の買物代も高い【図表14】。

【図表14】訪問地別 訪日外国人観光客の娯楽等サービス費、買物代(2018年暦年)

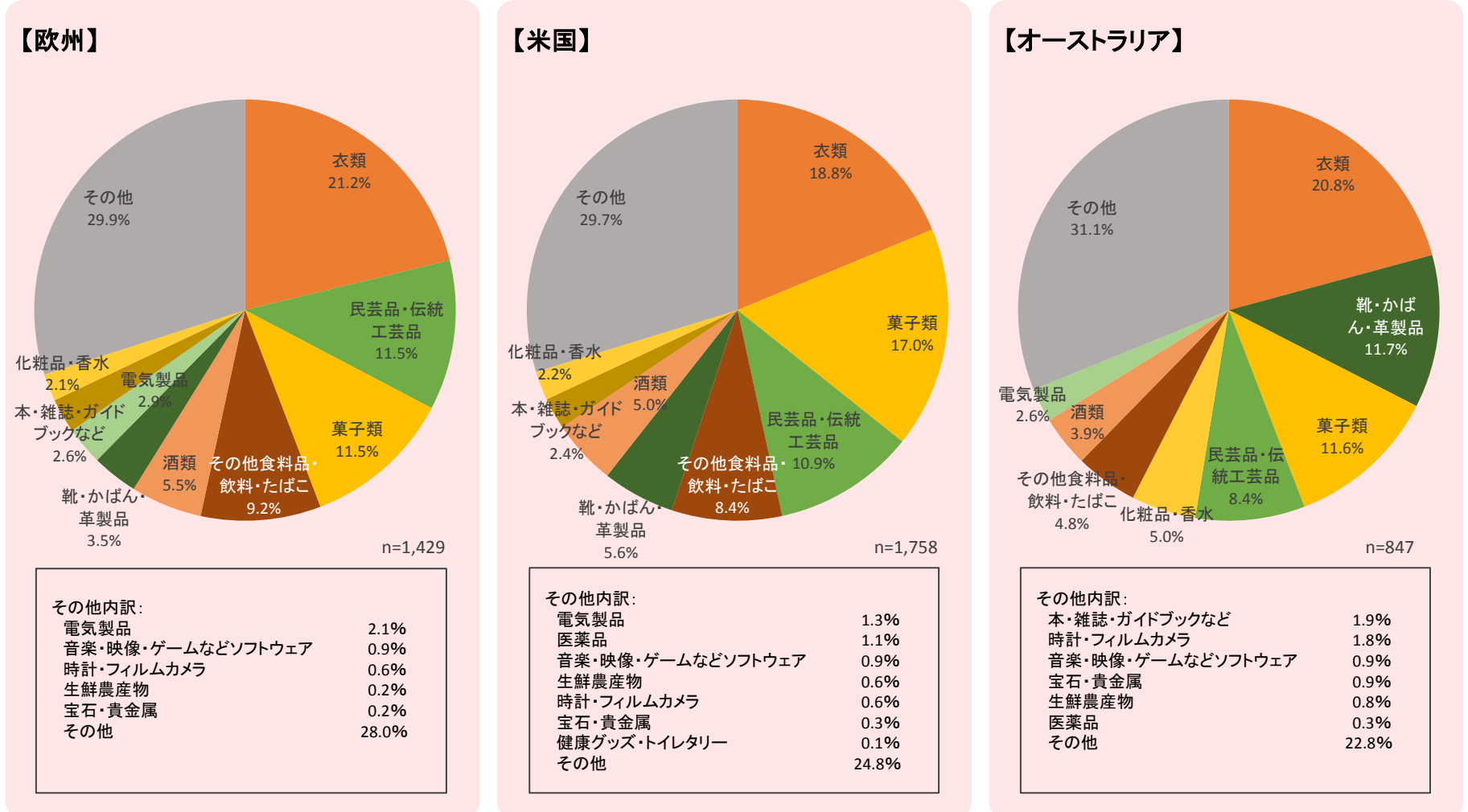


(注1) 訪問地は運輸局を単位としている。訪問地に入出国空港は含まれない。(注2)「欧州」は英国・フランス・ドイツ・イタリア・スペインを指す。
 (注3) 各数値は観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象とし、調査期、国籍・地域、出国空港別のJNTO訪日外客数(クルーズ客を除く)によるウェイトバック処理を施して算出している。
 (注4) 娯楽等サービス費、買物代にはパッケージツアー参加費に含まれる日本国内支出を含まない。

【満足商品】欧米豪いずれも「衣類」の人気の高い

- 最も満足した商品やサービスの構成を示す。欧米豪いずれも「衣類」の人気の最も高く2割前後を占める。米国は2位の「菓子類」も17.0%と高く、1位の「衣類」と大差ない。オーストラリアは「靴・かばん・革製品」の人気のも高く11.7%となっている。欧米豪いずれも「民芸品・伝統工芸品」が人で、1割前後を占めている【図表15】。

【図表15】訪日外国人観光客の満足した商品(2018年暦年)

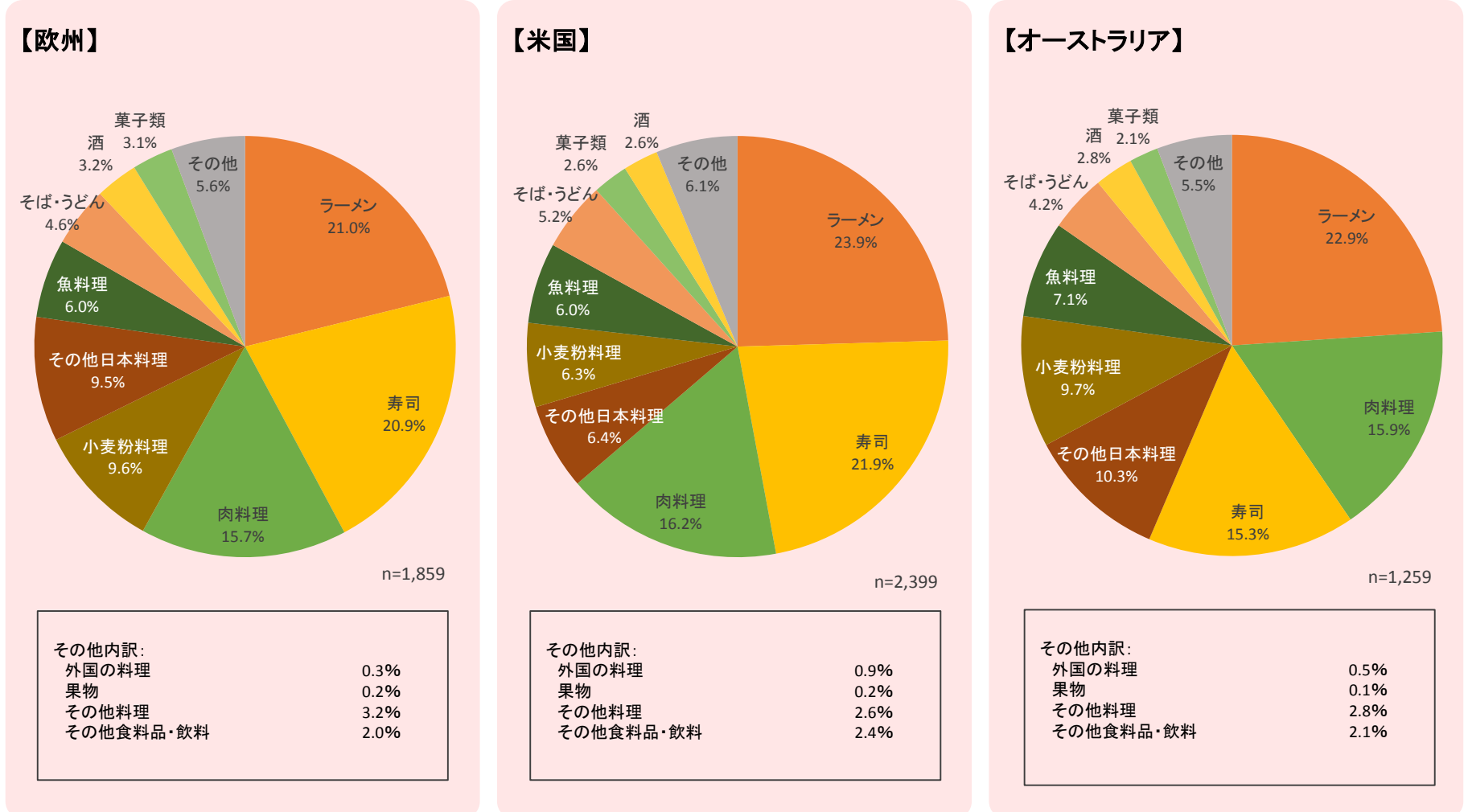


(注1)「欧州」は英国・フランス・ドイツ・イタリア・スペインを指す。
 (注2)各数値は観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象とし、調査期、国籍・地域、出国空港別のJNTO訪日外客数(クルーズ客を除く)によるウェイトバック処理を施して算出している。

【満足飲食】「ラーメン」「寿司」「肉料理」の人気が高い

- 日本滞在中に最も満足した飲食の構成を示す。欧米豪いずれも「ラーメン」の人気が最も高く、「ラーメン」「寿司」「肉料理」で5～6割程度を占めている。「寿司」は欧州と米国で2割以上と高いがオーストラリアでは15%に留まる【図表16】。

【図表16】訪日外国人観光客の満足した飲食(2018年暦年)



(注1)「欧州」は英国・フランス・ドイツ・イタリア・スペインを指す。
 (注2)各数値は観光・レジャー目的の訪日外国人を集計対象とし、調査期、国籍・地域、出国空港別のJNTO訪日外客数(クルーズ客を除く)によるウェイトバック処理を施して算出している。